

2013年度入学式式辞

中京大学学長 北川薫

例年にはない長く厳しい冷え込みも和らぎ、一気に緑が芽吹き、万物が生气に輝いて生き生きとする春を迎え、今日、中京大学に入学する新入生の皆さんを歓迎するとともに、お祝いいたします。おめでとう。皆さんは、東海地区最多の3万人を超える志願者の中から選抜されて、この日を迎えました。これから4年間、皆さんが学問に、文化活動に、そしてスポーツに、と澁刺としたキャンパスライフを送れるよう、中京大学は応援します。

また、本日まで新入生諸君を見守り、支えてこられたご両親はじめ関係者の喜びは、いかばかりかと拝察し、お祝いを申し上げます。中京大学は、新入生の皆さんが充実した学生生活を送り、社会に巣立っていくよう応援することをお約束いたします。さらに、大学院へ入学あるいは進学された皆さんも、これから取り組もうとする研究に意欲を燃やしておられることと思います。頑張ってください。

さて、皆さんが入学する中京大学にはこの春から大きな変化があります。

名古屋キャンパスでは、1号館、11号館の二つの高層ビルが完成し、新入生の皆さんを待っています。7階建ての1号館には、中京大学の開学者梅村清明先生の名前をとった500人収容の学術ホール「清明ホール」があり、5月にはトヨタ自動車の張富士夫会長の講演会でお披露目され、今後、全学規模の講演会、全国規模の学会などに使われます。隣の6号館の書庫と接続した新図書館が完備し、学生食堂やカフェテリアも入っています。また、11号館は12階建てで工学部の研究室などが下層階に入り、8階から上は大学事務局が入っています。これらの二つの建物は、名古屋の学術・大学ゾーンを貫く山の手通り沿いにあり、これまでの0号館を加え、3棟が連続しています。トヨタ自動車など有力メーカーが立地する東海・中部地区は、「世界のモノづくりの中核」とされてきましたが、今後ますますこの地区をけん引していく知的教育ゾーンのシンボルとなっていくに違いありません。

一方の豊田キャンパスは、ユニバーシティ・パークともいえる緑豊かなキャンパスになっています。野球、サッカー、ラグビー、陸上競技トラックなど国際規格の各種専用施設がそろい、アイスアリーナ「オーロラリンク」はソチオリンピックのナショナル・トレーニング・センターとして、フィギュアスケートの強化拠点施設にも指定されています。

さて、中京大学は留まることをしません、日々進化を模索しています。今年、開設された工学部は、情報理工学部を発展改組しての開設です。一昨年度には体育学部をスポーツ科学部に発展的に改組して、体育、健康の2学科からスポーツ教育学科、競技スポーツ科学科、スポーツ健康科学科の3学科体制に充実し、スポーツを核とした市場の拡大及びスポーツに対する期待やニーズの多様化に応じてきました。また、文学部から国際英語学部を分離独立させたのも、進む国際化、グローバル化の波にいち早く呼応して、人材を輩出しようとしたものです。

そうした流れの中、国際教養学部が独立して存在感を示しています。今から20年前、各大学にあった教養部は学問の専門化、細分化が進む中で、各学部解体吸収されていった歴史があります。しかし、中京大学では教養部を存続し、今では国際教養学部として独立いたしました。それは、アテネの昔から、リベラルアーツと呼ばれた教養は、人の人たる基礎であり、教養に重点を置いた国際教養学部の創設は、他の大学に先行し、真に世界に羽ばたく教養人を育てようとの考えからです。

このように、中京大学は質の高い、多様性のある勉学の環境を、社会とのつながりの中で整備、強化してきました。これからも、進化の流れを受け止め発展を続けていきます。

次に建学の精神についてお話します。私学には、なぜ、この学校を開くのか、を社会に明示した、おのおの独自の建学の精神があります。これが各大学の伝統であり、校風を形成する礎になっています。中京大学は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」です。「学術」は学問・知識のあくなき探究心を、「スポーツ」は健全な心身のバランスを指しています。つまり、「学術

とスポーツに真剣に取り組むことで人格形成、人間形成を目指しなさい」「その大切なところはジェントルマンシップであり、レディシップです」。即ち①ルールを守る ②ベストを尽くす ③チームワークをつくる ④相手に敬意を持つことである、と説明しています。

中京大学を貫く精神は「知力」「体力」「気力」と「フェア精神」を磨くことにあります。この建学の精神は人間が生きていくうえで、社会生活を営むうえで、とるべき道を示しています。どうか、この建学の精神を心にとどめて心身ともに豊かな学生生活を送っていただきたいと思えます。そのためにも、大学では、是非、多くの友人を作ってください。東日本大震災には心が痛みますが、あの震災によって、本学からも多くのボランティアが被災地に向かいました。他者のために流す汗は、絆の証（あかし）でもあり、「情けは人のためならず」というように、いつかは自分に返ってくるものです。

世の中には様々な考え方、生き方があります。他人である友人の考え方や行動様式を知ることで、自分自身をも知ることになります。また、1人では体験しきれないことでも、友人から見聞することで疑似体験することもできます。友人の数が多ければ、その範囲は広がります。本学の建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」にある、「相手に敬意を持つ」ことは、自分を知ることでもあるのです。友人と交わることで「自己の確立」を心がけてもらいたいと思っています。

最後となります。「中京大学の学生は元気にあふれている」、とありがたいことですが、社会から高く評価されています。それには、学生諸君の元気さは勿論のことですが、教職員の元気さも大きな要因となっています。教職員が学生とともに手を携えて、信頼しあうことでこの元気が醸し出されている、と私は考えています。今日から、中京大生となる皆さん、これからは教職員と仲良く、また互いに信頼しあうことで実りある学生生活を送ってください。皆さんが志と勇気を持って事にあたっていくかぎり、大学は必ず皆さんを応援していきます。今日からの4年間、皆さんの大いなる成長を願って、学長式辞といたします。

入学、誠におめでとうございます。